

■座談会について

今回、東北5県のインディーズ映画に携わる人たちを中心に、お話しをさせていただいた。非常に、今回の場は有益なものだった。仙台で動いてくれたスタッフの皆さんに、改めて感謝したいと思う。次回以降のこういったイベントに対しての要望を少し書かせていただければ、パネルディスカッション形式になどにして、議論の流れを整理しながら問題点を探り、解決の糸口を見いだせるような議論をできればと思う。その後、他の参加者を交えての議論などを展開するのも良いと思う。

■最後に

自分も含め、インディーズ映画に関わる人たちが、より多くの観客の皆さんに自分たちの作品を見せたいと思って考えているかを今回の座談会でとても感じた。それぞれの地域で、試行錯誤が行われていて、その事例を伺うことができ興味深かった。エンターテインメント、アートにおいて、つくり手と受け手のコミュニケーションは必要不可欠だと思う。しかし、コミュニケーションというのは、本当に難しい。特に、少数対大多数の形式のコミュニケーションというのは、これでもかと言うくらい気を遣わないと、良い形で成り立たない。

観客からのボールをちゃんと受け取っているか。実は、今そんなことを考えている。ちゃんと返球が来るためには、良いボールを最初にこちらから投げなければならない。そして、そのキャッチボールをする場合は、ちゃんと整備されていて、ワンバウンドのボールも捕球できるようになっているのか。それを今後も問うて、考えていきたいと思う。

アラカワケンスケ

MOVINS立ち上げのメンバーの一人であり、感情を中心に映像/音楽/アート/芝居/グラフィックデザイン等、幅広い活動を展開。右手のテレビ番組のオープニング映像やCM製作をはじめ、デジタルコンテンツ製作の仕事もこなしている活動的なアーティスト。活動についての詳しい情報は、上記アドレスの#を御覧ください。

■宮城 きしなみきよふみ（リアスフィルム）

■まずは参加/協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます

■インディーズ映画にとって最良の環境というのはどんな環境でしょう。
・良い物ができるようにがんばるのは当然のことですが作り手としていえば、映画を作るための努力を笑われない環境がまずほしいですね。音楽や芝居などは地方でも社会人で活動して評価されている方は沢山います。一般の人々に認識してもらう環境があればかなり助かります。
・そして、たくさんの人に見てもらえるように、情報流通や公開の場が必要ということに。「地方」という多少ハンデのある環境ですから、他の方が作った作品を見たりその製作状況が知りたいし、自作がいろいろな所で公開されてほしい。
・まずプロになって作る個人で作り続けるという2つの選択がある。/個人で作品を作ることを選んだ場合、解決すべき問題は山積み。
・・・・ということは、どうなればいいかな。 そんなところから活動しはじめました。

・詳しくは右の方に書きましたが、本当にゆるゆるの準備&進行で申し訳ありませんでした。
まずタイムテーブルの問題や形式の問題についてですが、「事前に打ち合わせて、ボードに問題点を書き出すなど、パネルディスカッション的な物にしたらどうでしょう?」という意見も、実ははじめにありましたが、あえてやりませんでした。インディーズの作家さんの集まりなどで何度かあったことなのですが、打ち合わせでは話が弾むのに本番は急に大人しくなるとか、それぞれでは互いについて批判するのに、本人の前では黙り込んで、帰ってからwebで吐き出すとか、どうも治まりの悪い思いをしたことが多々ありました。話が乗ったところでタイムリミットとか、あいさつしてお終いとか、そう言ったことだけはさげたいと思いました。どうせ完璧にいかないのなら、とことん語り合うのが良いのでは?との判断です。(面倒くさいからじゃありませんよ。本当ですよ/笑)
長過ぎるのではという意見もありましたが、実際に座談会になってますと、4時間以上話ってもまだ足りないと言う展開でした。

・「一人っ子体質」というのがあります。一つところに子供達を何人か集めて遊び道具を与える。取り合いなどが始まるが、そのうち自然とコミュニケーションがとれて、遊ぶ順番が決まってゆくが、中にはひとり離れて、誰もいなくなってから遊び道具に手を出す子供がいる。それは100%一人っ子だと言うあれです。「自分が注目されないなら一人で遊ぶ/みんなと公平な立場になるための努力が苦手」とかいう現象です。プロが「大人」。同じ立場の(地方)映像作家が「仲間」とすると、インディーズ映像作家は、そのコミュンの中ではそうでもないのに、いざ同種の他者同士が集まると「一人っ子体質」になっているのではないかと思う時があります。(特に仙台ですね。)

・物を作る時の必要悪と言う気もしますが、今回上映時間とかぶせてまで座談会を長時間設定し、乱暴な進行にした理由はこれでした。とにかく顔をあわせて話してみないと、陣取りじゃなくて、そこからじゃなければ何も始まらないと思ったからです。成果は?正直すくうまれる物は何もでないでしょう。でも、やっておかなければならないことだったと思っています。
・皆様、本当に有り難うございました。また何かありました時には、どうぞよろしくお願いたします。

きしなみきよふみ

リアスフィルム代表。高校時代から映像製作を開始。大学卒業後も映像製作/上映活動を続け、情報誌「インディーズ・ムービー」は、89年より発行し続け、もつとく100巻を越える。美術造形も行い、特撮造形や芝居の宣伝美術などの活動も行う。来年2月に、せんだいメディアアテークで「リアスフィルム・フェスティバル(仮)」の開催が決定している。

T5開催までの流れ

■イベント企画までの流れときっかけ
・「作りたい映画がたくさんある」という言う方は少なくないはずですが。学生という環境は、わりとそういった活動をしやすい環境にあります。しかし、卒業して社会人になったら?以前から、「映画を作り続けるにはどうしたら良いのだろうか?」と考えていました。

・大学在学中から活動しはじめ、89年から団体として新聞発行(「インディーズ・ムービー」)や上映会を開催してきたのですが、2年前、上映作品選定の段階で、団体では上映を見送ることになってしまった作品が多数あり、それらを上映するためや、個人として活動することでやれることが増えると思い、個人で「インディーズムービー・ステーション」という企画をはじめ、個人レベルでの上映をはじめました。
・全国の面白いといわれる作品を集めて無料上映し、「インディーズで面白い作品がある/そして、自分も作れるかも知れない」という事を多くの人に知ってもらい、映像製作の土壌を作れたらと思っの事です。(これまでも基本姿勢は全く変わりませんでした。)ジャンルファンだけでなく、普通の方に知っていただけるように。「はしのこえ」など、団体での選考基準にはもれたものの、「一般の人がみて面白いと思えるもの」を中心にラインナップを決め、データをまとめてパンフレットにして会場で配付、アンケートをとって監督に送り、観客の反応を月刊の新聞で報告という方法です。(原始的ですね/笑)
それによって、「自主映像が定期的上映され、存在できる場」ができるのではと考えました。
1年間で(もともと1年で終わらせるつもりでした)企画は終了。やっと自分の作品に集中できる・・・と思ったのですが、ふとあることを思い付きました。

■関東や関西の作家さん達とお会いすると、積極的に地元以外での上映会を開いたり、交流がさかんだったりするのに、なぜかこちらでは、人の作品は見ないという作家さんが時々いらっしゃいます。
やはり、製作される作品と観客の数が関東や関西と比べて絶対的に少なく、そのため情報と接する機会が少いためでしょうか。上記した「自分の映画をいろんな所で見てもらいたい」という希望はあるのに。

この1年上映してきた作品は監督と連絡がついている。上映作品の資料もデータで残っている。この1年分のプログラムで東北各県をまわって上映会ができるのではないだろうか?

■東北各県の映像作家さん達に連絡をとって、共同で同一プログラムの定期上映会はできないだろうか?準備段階として手始めに一番やりやすい、データも作品も残っていて一般の方も食いつきやすい、昨年の上映会のラインナップで開催し、おいおい各県から作品をつのって巡回上映ができないだろうか?東北各県のイベント紹介もかねて、各県の作家同士で情報交換や上映の場所確保ができるのでは?また、各県共同ならそれぞれのタウン誌などに働きかけて、タウン誌合同企画での作品募集や進行状況のレポート記事などで盛り上げる合同のコンペティションや映画祭の開催も可能なのでは?・・・なんて考えました。

■というわけで、昨年5月から、東北5県(秋田だけはいろいろ問い合わせたりしたのですが、残念ながら協力はいただけませんでした。)で上映会をやってみました。協力いただいたのは、青森の「Indian films」/山形の「自主製作映像祭」/岩手の「みちのくニューシネマ」/福島の佐藤監督。本当に突然のお願いというのに、本当に快く協力いただきました。皆さん、本当に作品と環境のことを真剣に考えていらっしゃいます。岩手の映画監督、藤井純一様には、岩手の映像作家/アラカワケンスケさんや当時福島フォーラムにいらした高橋さんを御紹介いただき、大変お世話になりました。

開催に際しては、上映順や会場、入場料の有無、タイミング等は各県の方にお任せして、やりやすいかたちでお願いしました。特に岩手の「みちのくニューシネマ」の阿部さんは、「えさし藤原の郷 映像館」を会場に隔月で上映会を開催。こちらで紹介させていただいた作品だけでなく、御自分でコンタクトをとった監督さんの作品を上映したりと、充実したイベントを展開して下さいました。(評判もかなり良かった様です。)

■1年の上映を終え、各県の方々のお話を伺っている内に、本当にいろいろな考え方ややり方があり、価値観もそれぞれだと勉強させていただきました。国が違えば環境も認識も地域差があります。この違いをぶつけあったら、作品でも座談会でも面白くなりそうですし今後の役に立つのではと思います、T5の開催となったわけです。(詳しい内容に関しては、参加いただいた皆様による本紙のレポートを御参照ください。)

■今後の展開ですが、各県へのリンクの窓口として、簡単な情報ヘッドラインと解説のある、合同のHPとかがあれば助かるかな・・・と思いますので、ちょっとやってみようと思っています。だれかやってくれる方はいませんか(笑)
■御参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。リアスフィルム/きしなみきよふみ